風水害対策

雨の強さと降り方（1時間雨量）

やや強い雨 10～20 ミリ	強い雨 20～30 ミリ	激しい雨 30～50 ミリ	非常に激しい雨 50～80 ミリ	猛烈な雨 80 ミリ以上
●地面からの跳ね返りで足元が濡れる ●雨の音で話し声が聞き取りにくい	●土砂降りで傘をさしても濡れる ●ワイパーを早くしても前が見づらい	●バケツをひっくり返したように降る ●道路が川のようになる ●高速走行時にブレーキが効かなくなる ●山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要	●滝のように雨が降り、傘が役に立たない ●水しぶきで辺りが白っぽくなり、視界が悪くなる。車の運転は危険 ●マンホールから水が噴出する ●土石流が起きやすく、多くの災害が発生する恐れがある	●息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる ●雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

風の強さと吹き方

やや強い風 平均風速 10 ～15m/s	強い風 平均風速 15 ～20m/s	非常に強い風 平均風速 20 ～30m/s	猛烈な風 平均風速 30m/s 以上
●風に向かって歩きにくい ●傘がさせない ●電線が揺れ始める	●風に向かって歩けない ●転倒する人もいる ●高所での作業が危険 ●雨戸やシャッターが揺れる	●何かにつかまっていないと立っていられない ●飛来物で窓ガラスが割れたり負傷したりする恐れがある	●屋外での行動は危険 ●樹木が倒れる

激甚・頻発化する異常気象の脅威

■台風

台風は、熱帯低気圧が発達して強雨と大雨をもたらす自然災害です。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害の無いように備えることが必要です。

■局地的大雨（ゲリラ豪雨）

夏場などに大気の状態が不安定となって積乱雲が発達し局地的に激しい雨を降らせる現象のことで、短時間に数十ミリ程度の総雨量となります。きわめて局地的に雨を降らせ、雨雲の発生から降雨までの時間が短いことから「ゲリラ的に大雨が降る」という意味でゲリラ豪雨と呼ばれます。

一気に押し寄せる大量の雨水を処理できない恐れがある中小河川や下水道の急な増水、アンダーパス（線路や道路をくぐる地下部分）等の低地の浸水に特に注意が必要です。

■集中豪雨

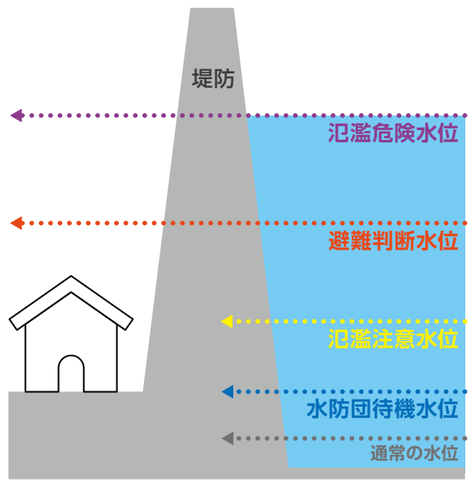
集中豪雨は、梅雨前線の停滞や台風の接近などを原因として、同じ場所に数時間にわたって大量の雨を降らせるもので、総雨量が数百ミリに達することがあります。

■線状降水帯

発達した雨雲が列をなし、組織的に集まった積乱雲群が数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで生じる現象です。この線状降水帯は、長さが約 50 ～ 300 キロメートルにわたり、強い降水を伴います。毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が全国各地で発生し、多くの甚大な災害が引き起こされています。

河川の水位情報

洪水予報	とるべき行動	警戒レベル
氾濫発生情報 氾濫が発生した時に発表される	●避難場所までの移動が危険な場合は、自宅や近隣のより安全な場所へ避難する。 ●命を守る行動を。	5
氾濫危険情報	●全員避難開始。 ●ガスの元栓を閉め、ブレーカーを落とす。 ●地域と協力して声をかけながら避難。 ●浸水前でも危険な場所から、避難を開始。	4
氾濫警戒情報	●避難に時間を要する人（高齢者・障がい者・妊産婦・乳幼児等）とその支援者は避難開始。 ●ガスの元栓を閉め、ブレーカーを落とす。	3
氾濫注意情報	●非常持出品を用意し、避難の準備を行う。 ●川や急傾斜地には近づかない。	2
雨が降り続いていたら	●テレビ・ラジオ・インターネットで最新の気象情報を確認。 ●避難先や避難経路を確認。 ●非常持出品・備蓄品を用意。	1



水位観測所における基準値

水系	高梁川水系			笹ヶ瀬川水系
河川名	高梁川		小田川	足守川
観測所名	日羽	船穂	矢掛	甫崎
氾濫危険水位（m）	11	6.9	5.2	3.6
避難判断水位（m）	10.3	6.2	4.5	3.3
氾濫注意水位（m）	8.9	4.2	4	3
水防団待機水位（m）	7.7	2.4	3	2.7

CHECK 水位の確認方法

国土交通省「川の防災情報」
https://www.river.go.jp

平成30年7月豪雨時の水内橋の様子